

# 中華人民共和国 地質学会代表団一行 地質調査所へ

地学団体研究会の招きで 来日した中華人民共和国地質学会の代表団一行は 4月28日 地質調査所(溝の口)を訪問した。

代表団のメンバーは

- |           |     |                              |
|-----------|-----|------------------------------|
| 孫殿卿氏 (団長) | 55才 | 地質力学研究所副所長で<br>構造地質学の専門家     |
| 丁國瑜氏      | 34才 | 中国科学院地質研究所研究員で<br>第四紀地質学の専門家 |
| 李宝興氏      | 35才 | 水文地質工程研究所研究員で<br>水文地質学の専門家   |
| 韓允哲氏      | 36才 | 代表団通訳                        |

の4氏である。

午前中 佐藤所長 小林地質部長 早川物理探査部長 蔵田応用地質部長等から 調査所の組織と調査・研究情況の説明を受け その後 おもな研究設備を見学 昼食の時間を切りつめて 熱心に質問・討論を行なった。

午後「中国における地質調査と研究 教育の現状」と題し 講演した。『中国からはじめてのお客さん』とあってか 会議室は満員の聴衆でうずまった。その要旨は次のとおり

.....

「本日 中国地質学会の代表として はじめて地質調査所を訪問し 佐藤所長先生 部長先生 および所員の皆様方から暖い歓迎をうけ かつ交流することができた

いへんうれしく思います。

ここで わが国(中国)における 地質調査・研究の組織や現状について 簡単にご紹介しましょう。

中国における 地質学の歴史 は 84年の長きにわたりますが 解放前はきわめて立ちおくれていました。

1949年の解放当初には地質の専門家は全国で300名位にすぎませんでした。解放直後から 地質事業の発展は国家としてきわめて重要視され 中央(政府)には 地質部(日本の省または庁に相当)が 地方(省)には地質局が設けられ おもに地下資源の調査に本格的に取り組みをはじめました。このほか 鉱山関係の石炭部 石油部 冶金部にも地質関係の組織が設けられました。

地質図幅には 300万 100万 20万分の1があります。このうち 300万分の1は 一部未調査地域(チベット方面)をのぞき ほとんど全国がカバーされています。基本的なのは20万分の1の地質図で これは各省(地方)の機関で行なっています。ですから省ごとに意見があわず 苦勞することもあります。地域のえらび方は 第1に生産からの要請 第2には100万分の1の図の編さんに必要な地域を基準にします。ふつう10人位で2~3年かかって仕上げます。

10万 5万 あるいはそれ以上の大縮尺の調査は 目的に応じて一部で行なわれています。

このほかに 特殊地質図 たとえば地層図 構造図 第四紀地質図なども出しています。これらの中には 学者により意見の一致しないものもありますが いろいろな見方のものをそれぞれ作っています。『百花斉放・百家争鳴』で解決しているわけです。これまでに 野外調査はかなり進んでいますが 印刷はやっと始まったばかりで あまり発行されてはいません。

地質部には 古生物・層位・岩石・鉱物・第四紀地質など いくつかの 付属研究所 があります。私(孫)の勤めている地質力学研究所もその一つです。探査方面の専門の研究所 たとえば 水文地質工程研究所などもあります。これらは 地域地質の調査・資源の探査から生じた さまざまな問題を解決するための研究所です。鉱山関係の部にも専門の研究所があります。これらの研究所は 各省(地方)に所在しています。

一方 より基礎的 理論的な研究所としては 中国科学院の中に地質研究所があります。ここでは 現在同位元素 地層 鉱床 岩石 構造 鉱物 土木地質 第四紀 水理地質 古生物など 11の研究室に分れています。

研究テーマの選択は 一部は純理論的な要請から採り上げられますが 多くは生産部門からの具体的要請に



佐藤所長と懇談中の代表団

よってとり上げます。たとえばある鉱山からその地域の金鉱の探査の要請があればその金鉱の分布法則という見地からは構造支配の法則に転換して考えられ地質力学研究所のテーマの1つとしてとり上げられます。もちろん同じ要請が一方では鉱物の問題に還元されて鉱物研究所のテーマにもなるわけです。

これらの中から自分のやりたいテーマを志望し全員の討論によって分配されます。テーマの分析にも軽重の区別があり大問題は共同研究で行なわれます。

地質部と中国科学院の研究所間のテーマの関連性や分たんについては調整組という組織がありそこへ地質部と科学院の両方から人を出して常に討論をし合い年1回の会議でテーマが調整されます。人の交流も行なわれています。

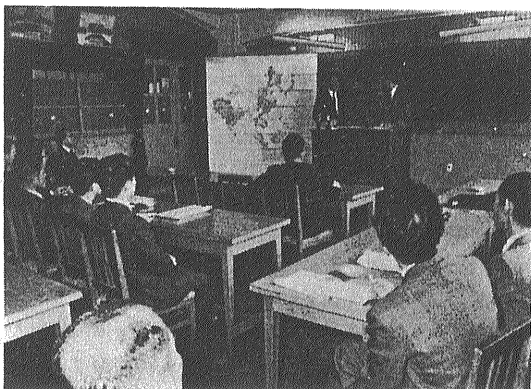
地質部の中では野外調査と室内の研究は別人が行なうのが原則です。そのため野外調査専門の人はほとんど1年中野外活動に従事しています。しかし最近では「反面強調」と言われて野外の人も時々室内研究をやり実験室の人もできるだけ暇をみて野外へでることがすすめられています。なお野外調査専門の人には年に1カ月の休暇が与えられています。

ここで地学関係の教育について知っている範囲でお話ししましょう。

解放前は全国のいくつかの大学に地質教室がありましたが全部あわせても1年に20人位しか卒業生がなかったものです。私(孫)が北京大学を出たときも同級生は数人にすぎずそれでも就職に苦労したものです。

解放後は今までの大学の地質教室も飛躍的に拡大しましたがこのほかに新しく地質専門の大学(学院)が3つ設けられ毎年数1,000人の学生が卒業するようになりました。たとえば北京地質学院では全学生数は4,000人もいます。5年間で卒業うち約1年半は野外実習に従事しています。地質学院の組織はいくつかの系(学部)すなわち地質系物理探鉱系土木地質-水理地質系探査系などにわかれ系の中には専門部たとえば構造地質専門部などがあります。今はそうではありませんが解放当初は需要が多すぎて5年の勉強を待たず2~3年で卒業という時代もありました。このほかに地質技術学校(日本の高専に相当)が各地にあり3~4年で卒業し卒業後はおもに探査に従事しています。何年か後にふたたび大学へ行く人も多ようです。

大学の研究部門では大学を出た人が研究生(大学院に相当)として3~4年以上の研究を行なっています。



講演中の孫団長(地質調査会会談)

地質の学生の男女の比率というご質問ですが今はだんだん女性がふえて来ましたが地質の場合はまだ少なくたとえば水理地質部門では10%位でしょう。

これもご質問ですが大学には希望者全員は入れず入学試験はやはりあります。最近では労農子弟の比率がふえて全学生の60~70%を占めています。

大学での卒業設計(卒業論文)はきわめて重視されます。テーマにおもに現場からの要請により与えられ現地調査を行なって論文を書きます。卒論は指導教授のほかに各方面の専門家たとえば地質部にいる私(孫)なども審査に参加しています。卒業成績の評価も生産に有用か否かなどを基準としてきびしく行なわれています。一方学位論文のほうは苦勞ばかり多くて実用的でないというので今はやっておりません。

就職は本人の希望と需要に応じて「配分」されます。そのため本人には第1志望から第20望以上まで申出てもらうこともあります。従来はやはり研究方面の志望が多かったのですが最近では野外活動の志願がふえています。総体的に最近では研究と生産現場の区別がなくなりつつあります。これも「反面強調」のあらわれと思います」

.....

団長の孫先生のほかに若手の丁さん李さんからも研究テーマのえらび方など自分の経験を通じて話していただいた。通訳を介するため時間がかかりまたスケジュールの都合もあって聞きたいことがたくさんあったのに名残りおしくお別れした。お隣の国ではあるが今までよく解らなかつた地質調査・研究の事情がわかり私たちに大いに参考になった。

なお代表团は5月初めの地学団体研究会の総会に出席したのち全国各地を訪問・見学後5月22日に帰国した。

(講演要旨には便宜上質疑応答の内容の一部も盛り込んだので実際の話の順序とちがった点があります。文責 地質部・垣見俊弘)